

障害者向けに農業体験

社会参加や就労に活用（新潟市）

新潟市は、重度の知的障害者を対象にした農業体験の事例をまとめた「アグリ・ケア・プログラム」を作成した。農業を福祉分野に活用し、障害者の社会参加や就労に結び付けてもらうのが狙い。福祉施設の職員向け説明会を開き、参加する施設を受け付けている。

プログラムは、体験の手順などを解説した職員向けと、絵で活動内容を説明した利用者向けを作った。「農業」「園芸」「動物」の3編で構成し、それぞれの専門家が講師を務める。

「農業」では、野菜くずを発酵させた土づくりや、プランターでの野菜栽培といった6種類を用意。「園芸」は25種類で、花苗をプランターに植えたり、フラワーアレンジメントをしたりする。「動物」には、市動物ふれあいセンター（中央区清五郎）で、アルパカやヒツジなどと触れ合う4種類がある。

4月26日に、中央区の市食育・花育センターで開

いた説明会には、市内の事業所から約20人が参加した。センターの職員や障害者施設の職員らプログラム開発に携わったメンバーが使い方を解説。事業所が利用者に対して作成する個別支援計画などにも活用できることなどを説明した。

参加した東区の通所施設職員高崎三佳子さん（49）は「利用者に動物や花好きの人がいるので、活用を検討したい」と話した。プログラム作成に携わった新潟医療福祉大非常勤講師の星野恵美子さん（67）は「季節の移り変わりに焦点を当て、五感をフル活用できる内容になっている」と体験参加を呼び掛けている。

プログラムは前期（6～10月）と後期（11～3月）に分けて実施。前期の募集は5月26日まで。問い合わせは市食育・花育センター、025（282）4181。

（新潟日報・新潟 2017年5月10日）